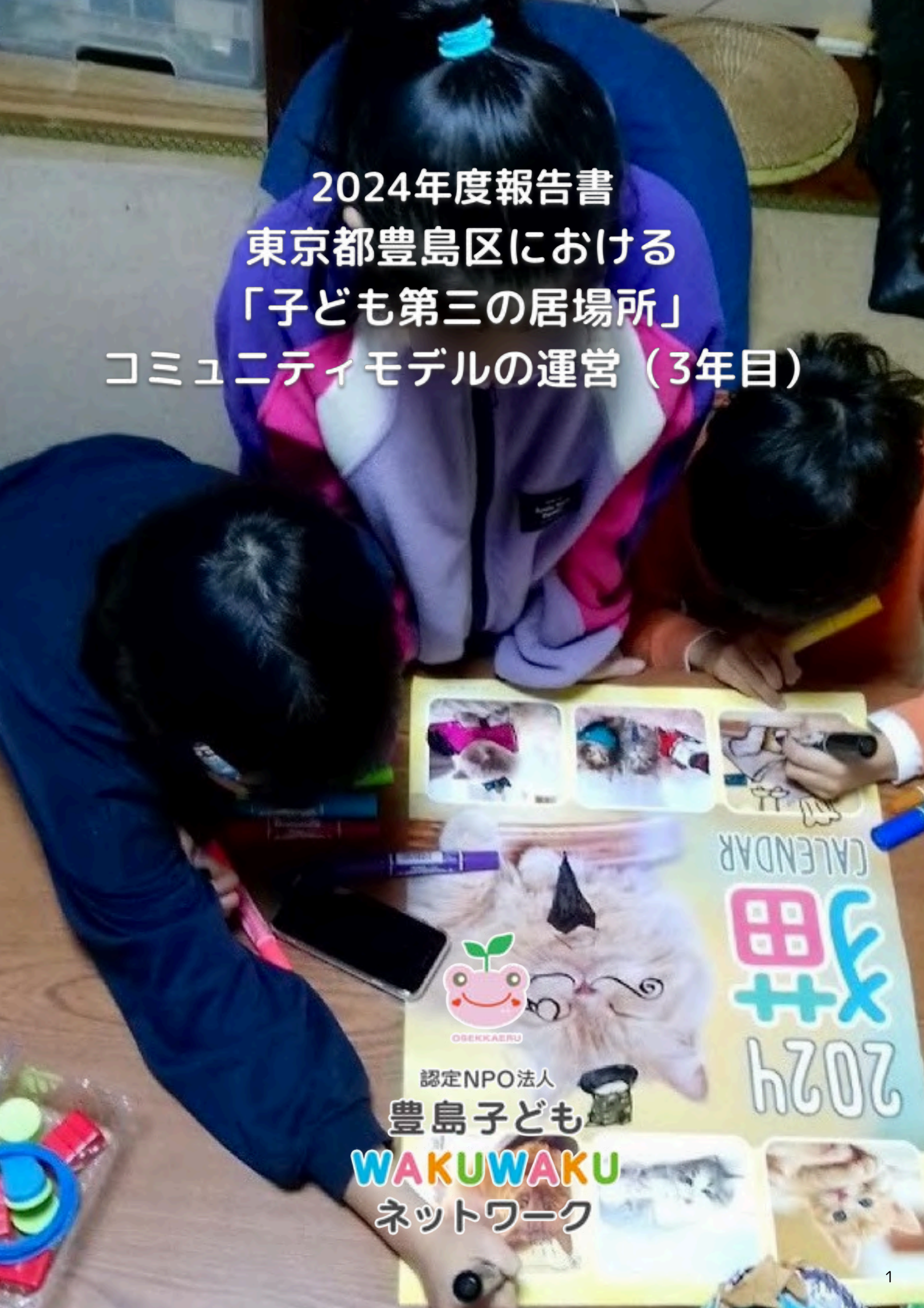


2024年度報告書  
東京都豊島区における  
「子ども第三の居場所」  
コミュニティモデルの運営（3年目）



認定NPO法人

豊島子ども

WAKUWAKU

ネットワーク





## 目次

- 03 はじめに
- 04 WAKUWAKUホームとは
- 05 利用者数及び、内訳
- 06 WAKUWAKUホームのスタッフより
- 07 Aさんのこと
- 08 WAKUWAKUホームギャラリー
- 10 WAKUWAKUホームについて、利用する子どもたちへのアンケート
- 12 イベント報告
- 15 おわりに

## はじめに

小中学生の不登校の数が、ついに34万人を越えました。2000年ごろから12万数千人で高止まりをしていましたが、この5、6年で急増してしまったのです。コロナの影響もありますが、コロナ前からじわじわ増加していて、コロナが拍車をかけました。

学校では全児童生徒にタブレットが配布され、学校を休んでもオンラインで授業が受けられるようになりました。

不登校の要因はさまざまです。一概に何が原因などと特定できるものではなく、一人ひとり違います。ただ、言えることは、子どもたちのニーズに学校が応じていないのだと思います。私が通っていた頃の小中学校と本質的に変わっていない。しかし、子どもたちのニーズは多様化しています。

ホームに来ている子どもも一人、学校に行かなくなりました。学校に行くか行かないかを選ぶ権利が子どもにはあります。行かなくてもいいのです。行かないことで自分を責めたり傷つけたりしないでほしい。その子は、今ではのびのびとホームで過ごし、精神的に落ち着いてきたと思います。笑顔も増えました。「ありのままのあなたでいいんだよ」というメッセージを送りつつ、これからも見守っていきたいと思います。

家にひきこもっている子どもの多くが、YouTubeとゲームをして過ごしています。

人との関係で傷つきひきこもりますが、回復するためには人と関わる必要があります。

WAKUWAKUホームは安心していただける居場所でありたいと思います。



小学4年生の子が描いてくれた絵です

WAKUWAKUホーム責任者 天野敬子

※本事業は、日本財団から助成を受けて運営しています。





## WAKUWAKUホームとは

宿泊機能をもつ子どもの居場所。利用料は無料である。貧困、疾病、障害、その他さまざまな理由から養育困難に陥る家族が地域に少なくない。市町村の対応窓口においても、児童相談所においても、全国的に児童虐待相談件数は増加の一途をたどっている。対応件数が増えてくると、重篤なケースを優先せざるを得なくなり、予防的介入はしにくくなる。

一方で、調子の悪い時にちょっと支えてくれる人がいれば、ちょっと預かってくれるところがあれば、危機を乗り越えていける家族もある。子どもを住み慣れた地域から引き離すことなく、安全に、地域で見守り育てていくために、地域住民にできることを提供するのがWAKUWAKUホームである。地域住民主体のNPOが、すべての子どものwellbeingをめざして、支援機関と連携しながら、貧困・虐待の連鎖を断つために活動している。

### 宿泊機能

急な出張、緊急入院、今日は鬱で動けない、そんなさまざまな保護者の事情に応じて、柔軟に宿泊対応をしている。家に帰りたくないとやってくる子どももいれば、子どもと距離をとりたいという親もいる。必ず保護者の了承のもとにお預かりしている。

### 居場所機能

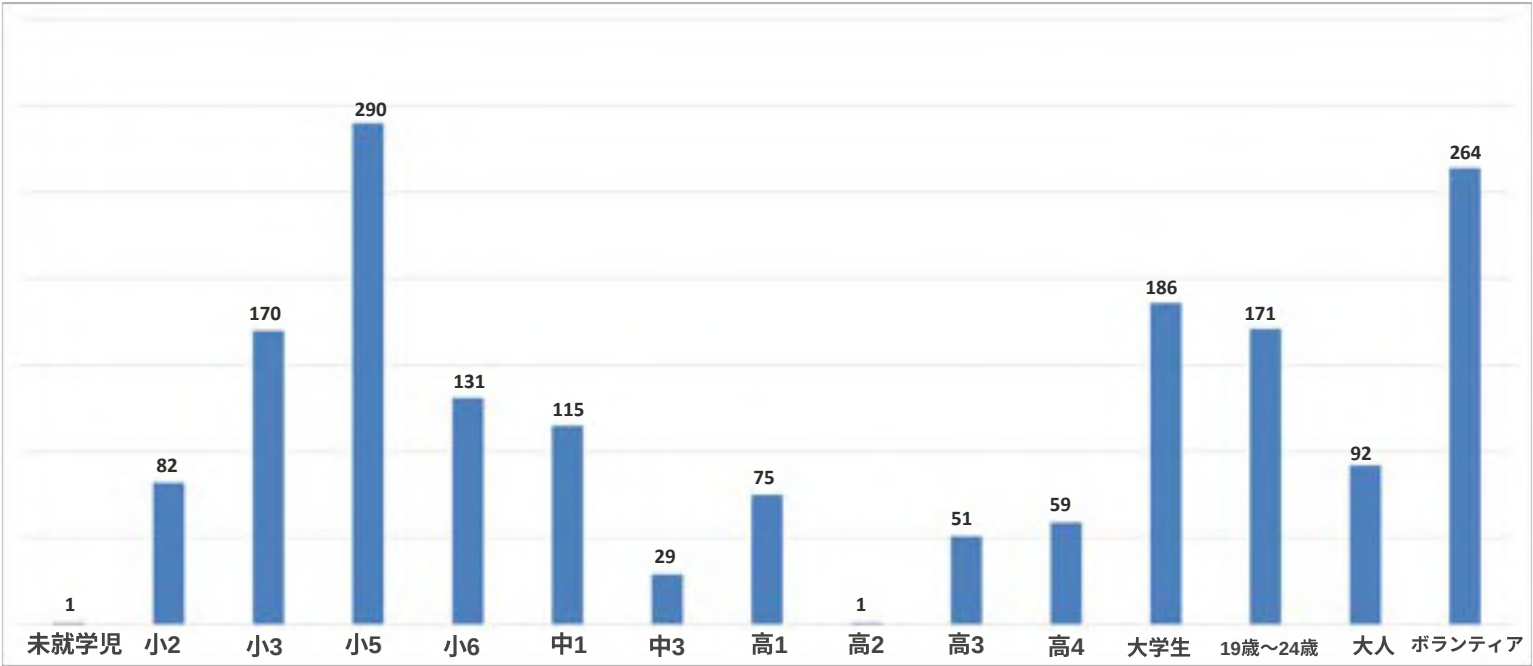
火曜日から土曜日までは、ホームをオープンにしている、地域の子どもたちが遊びに来る。サポートしてくれる学生ボランティアや地域のボランティアさんがいる。

### 相談機能

子どもと保護者の相談に随時応じている。



年間利用者数（宿泊者数の参加人数を除く） 延べ1717人



月別宿泊利用者数 延べ175泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4人	1人	3人	4人	0人	2人
34泊	31泊	34泊	35泊	0泊	3泊
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4人	4人	1人	2人	2人	5人
5泊	8泊	1泊	3泊	7泊	14泊

WAKUWAKUホームで行っているグループ活動

シンママおしゃべり会（奇数月の第二日曜日）

シングルマザーさんが集まって、気楽におしゃべりをしています。シンママ同士だからこそ共感できることがたくさんあります。毎回4～5名程参加。

不登校の親の会（偶数月の第二日曜日）

共通の悩みをもつ者どうしなので、共感的受容的にお互いの話を聴くことができ、エンパワメントされて帰っていかれます。毎回4～5名程参加。

### 馬橋 はな（火、水、木、土曜 勤務）

今年から土曜日にもホームに入る事になり、昨年より更に沢山の時間を子ども達と過ごしました。いつの間にか、スタッフである私自身もホームを自分の家の様に感じるようになっていきます。

小学生から社会人までが利用する土曜日に入るようになった事で、関わる年代の幅が広がりました。小中学生の時からホームに來ている若者の彼らは、まるで実家に帰って來たかのようにくつろぎ、大学や社会生活の疲れを落としています。ホームに來て2年目の私は、子どもだった頃の彼らの姿は知りませんが、いつも前のめりで趣味の話をしてきたり、皆でゲームをしようよ!と呼び掛ける彼らの姿を見ると、彼らがここでどんな風に過ごして來たかが目に浮かびます。

そんな彼らは今、ホームに來る子ども達にとっての優しいお兄さんお姉さんです。ゲームが好きな小学生達を喜ばせようと自分の家から子どもが喜びそうなゲームソフトを持って來たり、1人である子に声を掛けてカードゲームに誘ったり。その姿から過去のスタッフやボランティアさんとの関わりが垣間見えます。自分で持って來たゲームソフトで小学生と遊んでいる仲間の姿を見て、「〇〇(過去のスタッフ)がやっていた事じゃん、懐かしいな(笑)」と笑う若者達を見た時は、優しさが受け継がれていることを実感して胸が熱くなりました。

お兄さんがやってくると飛び跳ねて喜び、目を輝かせながらゲームをしているあの子ども、いつの日か年下の子に優しくゲームを教える日が來るのかもしれない。

そんな優しさが連鎖する、温かな居場所で在り続ける事を心から願っています。



### 石平 晃子（金曜 勤務）

こじんまりとした人数の金曜日ホームだが、うるさい。

歌ったり、踊ったり、演劇を始めたりが毎週のように繰り返されている。

圧倒的に女子がけん引しているが、男子中高生も実は少し巻き込まれたがっている様子があり、それを女子たちが見逃さない。小さな分校の放課後はこんな感じなんだろうか?などと大都会池袋で思ったりする。

池袋に引っ越して來る前、サンシャイン通りのにぎやかさと、ドラマ「ウエストゲートパーク」のやばさのイメージしかなく、池袋に普通の暮らしがあることを想像できなかった。ましてや子どもの生育環境としては全く持ってダメだろうとしか思えなかった。

ところが、繁華街を抜け10分足らずで小学校があり、その前にWAKUWAKUホームがあり、その中ににぎやかな子どもの居場所がある。おばあちゃんの家みたいとよく言われるリビングは、こなれたすり切れ具合の畳と障子があり、いつの間にか寝てしまっている子どももたまにいる。みんなここが好きで、わざわざここに「帰りに來る」

そこは普通の家のように、なかなか普通にはあり得ない場だ。たくさんの方の善意やおすそ分けやいろいろなサポートでどうにかここまでやってこれたことを奇跡にしたい。これからもどうにかして、子どもたちがずっと当たり前のように帰りに來られる場を続けていきたい。





## A君のこと

A君は中学1年生のときからホームに来るようになりました。不登校でしたが、ホームを気に入ってくれたようです。

A君は「ゲームの神様」とよばれています。ゲームがとても上手いのです。ホームでは、スマッシュブラザーズというゲームが一番人気。上手い人がもう一人いて、2人の達人はホームで出会い、信頼関係を築きました。

中学3年間、ホームはほとんど休まず、14時に来て21時まで、ゲームをして過ごしました。その集中力はすごいです。

ゲームしかしてないはずなのに、握力が強く、足も速いです。

高校生になると、高校の近くに引っ越しをしました。そして、頑張って登校するようになりました。心折れそうなときもありましたが、学校も保護者も彼を励まし、暖かく見守ってサポートしてくれました。

ホームには、約10kmの道のりを自転車で来るようになりました。雨の日も、風の日も・・・口数は少なくて寡黙なのですが、彼のやさしさはホームの皆がよく知っています。高校4年生となった今では、子どもたちにゲームのやり方を教えてくれるようになり、彼が来ることを小学生は心待ちにしています。

そして、就職も決まりました。4月からは社会人です。実習に行った会社からぜひと言われたようです。経理の仕事をするそうで、簿記の勉強を一生懸命しています。土日はお休みなので、土曜日には顔を出してねと伝えました。



7年の月日を経て、社会に出ていくA君に、心から「おめでとう」と言いたいです。

## みんなで、いろんな遊び！！

子どもたちが集まれば、いろんな遊びを考えて大盛り上がり



## クリスマス やハロウィン

季節ごとの行事もみんなで楽しめます！！

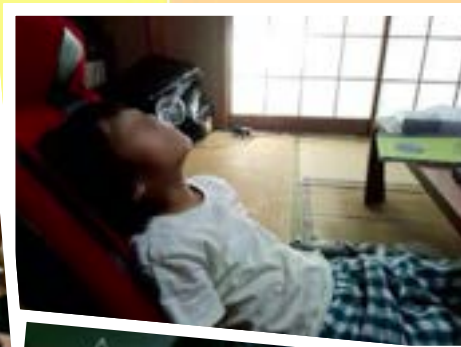


## スイーツ作りやお絵描き





勉強したり、  
工作したり  
ゲームしたり



料理を食べたり、  
作ったり、片づけたり  
誕生日を祝ったり



それぞれが、  
自由に過ごせる居場所

火、木は、主に小学生が利用し宿題や工作  
ボードゲームなどをして遊び、  
水、金、土は主に中高生が利用し、TVゲー  
ムや勉強などをして自由に過ごしています。  
どちらも一緒に夕食を食べて、宿泊する子以  
外の小学生は20時まで、中高生は21時まで  
利用可能です。





## WAKUWAKUホームについて、利用する子どもたちへのアンケートなど

Q WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

とても楽しいところ！大好きなところ！

Q WAKUWAKUホームで印象に残っていることは何ですか？

みんなやさしくてみんな友達みたい。  
 あおちゃんとおえとともうれい！ほなさんや  
 いろんな大人がやさしい。楽しいのは  
 みんなでねごはんを食べてうれい！  
 おいしくたべられる。 小6

Q WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

ごはんをたべたり、WAKUWAKUの  
 人とあそんだりするところですね！

Q WAKUWAKUホームで印象に残っていることは何ですか？

みんなが明るい！たのしい！  
 1人1人のしませられる！ 小5

Q WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

楽しいところ、ごはんがおいしい、べんぎょうが  
 できるにぎやか。スタッフとボランティアさんた  
 ちに気軽に話せること  
 いろいろな本があること  
 いろいろな遊具や道具があること

Q WAKUWAKUホームで印象に残っていることは何ですか？

べんぎょうを教えてくれて、良い点数外とれたこと  
 新しい友達外でできたこと  
 みんなで料理をつかったこと  
 かくれんぼをしたこと  
 外で遊んだこと 小6

Q WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

1人が温かくなる居場所です。なやみごとがあれば  
 気軽に相談できるし、遊んでくれる人いる場所です。  
 本音で話し合えるし、1人を見ることが出来ます。  
 WAKUWAKUは私にとって、大切な場所です。

Q WAKUWAKUホームで印象に残っていることは何ですか？

面白い人がいて、ダンスをしたり歌を歌ったりしてとても楽しい  
 場所です。みんなとカードゲームをしたりして団らんをしたり  
 などかとても楽しいです。勉強も教えてくれるし、優しい人  
 もいっぱいいて、すごく良い場所です。 中1

Q WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

楽しいというか、友だちの家へ行くようなフワフワ感がある  
 場所です。

どんな曜日でも色々な人がいて、毎日色々な出来  
 事が起きるので、行くのが楽しみになります。

居る全員が、私の話などにちゃんと耳をかたむけてくれるのと、  
 好きなことや今日あった出来事を話せる大切な場所でもある  
 ます。

Q WAKUWAKUホームで印象に残っていることは何ですか？

クリスマスにみんなで作ったケーキです。

たまにのちやふろをつまみぐいしたりして、けいこう自由を感じの  
 ケーキ作りでした。

私は生地に作るバウムクーヘンを切りました。なんとおんなをなめた  
 なんてした気になります。

ときおんなのケーキはとても美味しかったです。

小5



Q WAKUWAKUホームはあなたにとってどんなところですか？

とまがちかてまて 小3



## WAKUWAKUホーム ボランティアスタッフの皆さんより

『心身の不調により幼稚園を休職していた際、大学の先生にご紹介いただき、WAKUWAKUホームにボランティアとして携わらせていただけたことになりました。

休職し、WAKUWAKUホームに通うようになる前は、人と関わることに對しても恐怖心を抱いていたことや、自信を喪失していたことによって、家の中で1人閉じこもっている状態でした。そんな中でのボランティア活動開始時は不安と緊張でいっぱいでした。当初、子どもとの関わり方に戸惑い、何も役に立っていないと感じ、不安感に襲われていることを相談すると「いてくれるだけで助かる」「自分らしく、自然体で大丈夫だよ」と言われたときは、自然と涙があふれる程でした。また、少し慣れてきて、自分なりに何かしなきゃと焦りを感じた時は、スタッフの方が「私は子どもたちが安心していられる場所、将来何か困ったことがあったら駆け込める場所にできたらな」とおっしゃっていて、本質を捉えた関わり方の重要性を感じました。

徐々に子どもたちが名前を呼んでくれるようになり、「こんにちは」と返事が返ってくるようになり、たわいのない話や好きなキャラクターの話、そして時には悲しかったことや悩んでいることの話をもポロっと話してくれるようになって、それは私にとって嬉しいことであり、子どもたちにとってもっと安心して話せる存在になりたいと思うようになっていきました。

またWAKUWAKUホームを訪れ、驚いたことがあります。それは、子どもたちの「やりたい」を決して否定せず、とりあえずやってみるというスタッフの対応です。大人の都合で、「それはダメ」と止めてしまいそうなことでも、代替案を提示したり、子どもの「やりたい」のイメージを自然と会話の中で引きだしたりしていました。また、日常の中でも何気ない会話で「それは違うのではないかな？」と思うことでも「そうだよ、そうかもしれない」と一旦は子どもの言葉を温かく受け入れていました。その積み重ねなのか子どもたちはスタッフさんにいろんな話を安心してできているのだと感じました。

WAKUWAKUホームには、たくさんの大人が携わっており、子どもにとってもより多くの大人と関わる機会となっていました。私も同様に、様々な子どもや、ボランティアさん、スタッフの方々との出会いによって、食事の重要性や、ひとり親家庭について、重い障害を持つ兄弟のケア、電子機器との関わり方、居場所支援の在り方など多くのことに興味を持つことができました。たくさんの経験をさせてくださったWAKUWAKUホームさんに感謝申し上げます。この経験を活かし、これからも子どもたちと関わっていきたいと思います。』

『一年弱お世話になり、大きく成長することができました。教職課程の一環で始めた活動ですが、教職に関係なく自分のコミュニケーション能力を伸ばすことができました。苦手だった会話ができるようになり、コミュニケーションにおいて何を言わないかを考えられるようになりました。また、教職課程を辞めたタイミングで、活動に対する考えを改める機会となり、より積極的にコミュニケーションをとることができました。ホームの子たちとのコミュニケーションを通して想像以上に成長することができました。』

『2年弱、お世話になりました。就活中などいけない時期もあったので、私的にはあっという間でした。私も勉強がしたくても金銭的な問題で塾には行くことができなかったり、両親の離婚、母親との絶縁を中学3年生の頃に経験していたので、同じように何かしらの問題を抱えている子供たちと継続的に関わるのができ、確実に自分の中での人生の指針というか、大切にしていきたいものが良いように変化したように感じます。社会人になっても教育支援のような活動は継続したいと思っています。

ありがとうございました。』



1月20日、IKE・Bizとしま産業振興プラザにて「WAKUWAKUホーム報告会」が行われました。ご来場いただいた皆様から沢山の激励の言葉をいただき大変励みになりました。

子ども家庭福祉研究・研修機構長西郷泰之さんから『ファミリー・グループ・カンファレンス』について、ロンドン郊外のCAMDENという地域での実践を織り交ぜながらご講演いただき、新たな取り組みについての学びになりました。

この1年、WAKUWAKUホームでは沢山の子ども達の変化を感じる事ができました。人見知りだった子どもが周囲の子ども達に負けじと話しかけてくる姿、いつの間にかスタッフとの会話に敬語を使わなくなっている姿、そんな姿が日常的に見られるようになりました。その中でも“良い子”であった子どもが自己主張する姿を見せてくれた時の嬉しさはひとしおです。食事中、自分の好き嫌いをハッキリ伝えてくれたり、宿題をしたくないと寝転がる姿を見て、自然体の様子をさらけ出してくれることに嬉しくなりました。

また、子ども達が様々なボランティアさんと接することで受けた影響も大きく、子どもの成長は周囲の大人によって変化するという事を肌で感じた1年でした。



2017年の4月にオープンしたWAKUWAKUホームに、どんどんおせっかえる（お世話になったお返しをしにきてくれる）の存在が増えています。大人になった彼らが進んで子ども達と関わる姿に、おせっかい精神を感じて温かな気持ちになります。

これから先も、彼らの人生にWAKUWAKUホームが寄り添い続けていくことを願いながら、今日もホームでみんなの帰りを待っています。



## 地域の子どもを地域で見守り育てる ～「WAKUWAKUホーム」の実践より～

NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク  
高橋 はな

## 「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」

子どもの貧困

地域の子どもを地域で見守り育てる  
をコンセプトとして活動する地域住民主体のNPO

誰一人取り残さない地域を目指して

地域の中の居場所作り活動

## WAKUWAKUホーム ～泊まれるお家～(親戚のお家)

・2017年4月～  
・地域の子どもを地域で見守り育てるために  
一時的にあずかれる場所が必要  
※現在は日本財団の助成を受けて運営



居場所の提供

宿泊支援

相談支援

地域の子どもを地域で見守り育てる主な取り組み



地域を変える 子どもが変わる 未来を変える

口火曜～土曜日 14時から21時 火・木：小学生中心 水・金・土：中高生中心

2023年度年間利用者数(宿泊者数を除く)  
累計893人



居場所の提供

食の支援

毎日、スタッフやボランティアが夕食を手作り、皆で食卓を囲む。



居場所の提供

学習支援

小学生が対象。火曜と木曜の17時から宿題タイム。PC教室も。



居場所の提供

遊びの支援

様々なおもちゃや工作でクリエイティブな力を発揮します。皆でゲームもします。



## 虐待支援

ひとり親家庭など、頼れる人がいない中での子育ては大変。

- ◆急な出張や、緊急入院
- ◆家に帰りたくない(子ども)
- ◆家で食事を作れない
- ◆子どもと距離を取りたい、これ以上子どもといると叩いてしまいそう

子どもが安心して泊まれる

地域や学校から切り離されない

家庭とも行き来ができる

WAKUWAKUホームの必要性

## 虐待支援



2023年度年間宿泊者数 累計4683泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
3A	4A	4A	5A	7A	8A
21泊	30泊	32泊	47泊	55泊	37泊
10月	11月	12月	1月	2月	3月
5A	4A	4A	4A	5A	5A
30泊	30泊	34泊	36泊	37泊	37泊

・ショートステイで週末だけ、月に1回だけ、1年以上の長期宿泊など多様。

## 相談支援

定期的な相談会の開催や、緊急の相談など

### シンママおしゃべり会

(奇数月の第二日曜日)  
毎回4～5名参加。  
シングルマザーさんが集まって、  
気楽におしゃべり。  
シングルマザー同士だからこそ  
共感できることが沢山あります。

### 不登校の親の会

(偶数月の第二日曜日)  
毎回4～5名参加。  
共通の悩みを持つ親同士なので、  
共感的・受容的にお互いの話を聞くこと  
ができ、エンパワメントされています。

## 季節のイベント

季節のイベントを皆で楽しんでいます。

### ハロウィン



### クリスマス



### お正月



## お誕生日のお祝い

お誕生日のケーキやゼリーを皆で手作りしました。



貧困・虐待の連鎖から

「おしゃべり」の連鎖へ





## おわりに

WAKUWAKUホームも8年目となりました。

高校を卒業するときに、ホームも卒業してねと送り出した子どもたちがいます。いつまでもその子どもたちがいると、下の子どもが入ってこれないからです。ホーム以外の居場所をつくってほしいという思いもありました。その子どもたちが、最近は実家のように遊びにくることがあります。就職した子、専門学校に進学した子、大学に進学した子、さまざまです。新しい居場所をみつけ、ほとんど顔を出さない子もいます。用事をつくってはしばしばやってくる子もいます。

2年ぶりにホームに顔を見せた子ども（もう年齢は大人ですが）が、ここにいると力が抜けると言いました。他のどこにもちがう感覚、リラックスできると言ったのです。長く深くつきあった子どもの一人です。あどけなさが消え、おとなの顔つきに成長していました。

「困ったときには相談にくるんだよ」「いつ来てもいいんだからね」と言って、食材をいくつか渡しました。私だけでなく、彼と関わり続けてくれている元スタッフやボランティアさんがいます。

私が自分で自立したと思ったのは30才の頃です。母子家庭で育った私がようやく親元を離れひとり暮らしをして、何となく自分で生きていけるという自信ができました。遅すぎるかもしれませんが、20代はまだ未熟です。困難に突き当たったときに、帰ってこられる実家のような場所でありたいと思います。



WAKUWAKUホーム責任者 天野敬子



みんなが帰ってこられるHOMEになれば  
そんな願いを込めて・・・

WAKUWAKUホームは、以下の助成を受けて運営しています

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION



団体名

住所

TEL

E-mail

Webサイト

認定特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

〒170-0011東京都豊島区 池袋本町1-28-1サンスプレnderキタイケ 102号

050-5526-1229 受付時間:10:00~17:00 (土日祝日を除く)

info@toshimawakuwaku.com

<https://toshimawakuwaku.com>